第２回Ｊヴィレッジ復興プロジェクト委員会議事録

１　日　時：平成 26 年９月５日（金）14 時００分～午前 15 時 10 分
２　場　所：ふくしま中町会館 ６階 特別会議室
３　出席者：別紙出席者一覧のとおり
４　議　事
（１）開会
（２）委員紹介
　事務局から新たに委員となった東京電力㈱石崎委員を紹介した。（欠席のため、村永企画総務部長が代理出席。）
（３）議事
　近藤委員長が議長となり議事を進行した。
　事務局より「新生Ｊヴィレッジ復興・再整備計画の基本的構想に関する中間報告」について説明を行った。
　以下のとおり質疑があった。

【近藤委員長】
・持続可能な収益構造を確立するために、どの客層をターゲットにし、どのような部分に力を入れて経営している考えであるのか。
【小野委員】
・震災前、営業の前提としていた環境が崩れており、先行きが不透明な部分が多い。
・社会人サッカーチーム等から、「早期にＪヴィレッジでプレーしたい」という声は寄せられているが、風評の影響がどこまで出るのか、あるいは、今後進められるイノベーション・コースト構想がどの程度の集客効果を及ぼすのか現時点では見通すことができない。
・その中でも「NTC」「サッカーの聖地」という看板を堅持し、Ｊヴィレッジの価値を保つ必要がある。
・ビジネス需要など新たなものを取り込みながら、厳しい経営環境であることを前提として検討する必要がある。
【近藤委員長】
・イノベーション・コースト構想の見通しはどうか。
【村永委員】
・まだ具体化してはいない。東京電力㈱としては、10 万人プロジェクトを継続するので、Ｊヴィレッジを利用できればと考えている。ビジネス利用とサッカー施設のイメージの保持はバランスが必要。

【菅野委員】

・震災前も広野町のパークゴルフ大会の際にＪヴィレッジに宿泊したりという形で連携してきた。Ｊヴィレッジと連携した企画を構築したい。

【宍戸委員】

・楢葉町も野球場を改修した。天神岬の温泉もある。面的に組み合わせた形での誘客が重要と考える。

・一方で、町全体の再生には時間がかかり、徐々に進めざるを得ない。特に地場産品は厳しい状況にある。Ｊヴィレッジが再開する時点でどのように連携していくかが課題。

【戸田委員】

・プロジェクトチームでは、これまで利用者、経営者、地域振興の観点からＪヴィレッジに必要な機能等について検討してきた。

・利用者としては、震災前、芝の安定したコンディション確保が施設の魅力を損なう大きな要因となっていた。このため、最新式天然芝の導入や全天候型練習場を提案している。

・経営者としては平日の利用率が課題。イノベーション・コースト構想に伴うビジネスニーズを平日の閑散期に取り込むのが有効と考える。

・また、NTC 強化の観点から、東京都の味の素ナショナルトレーニングセンターの視察を行った。世界大会と同じ環境でトレーニング可能な点、プレーをその場で確認できる映像装置といった機器が充実している点、栄養管理等のサポートが受けられる点などが選手にとって魅力であり、Ｊヴィレッジ再整備に当たって参考としたい。

【上田委員】

・代表チームがＪヴィレッジで合宿を行うことは、風評払拭にとって大きな効果を持つ。2019 ワールドカップ、2020 東京オリンピックではぜひ代表チームの合宿を行いたい。

・実現のためには安全性を高めるとともに、グラウンドの質を高め、付加価値を高める必要がある。

・１面規模の全天候型グラウンドは日本初であり、天候に関わらずトレーニング可能な環境はぜひ必要。

【近藤委員長】

・新たな競技の誘致の可能性についてはどうか。

【事務局】

・アメリカンフットボールはトレーニング環境が未整備と聞いている。

・また、地域のスポーツ施設と連携し宿泊機能を提供するなど想定される。

【小野委員】

・アメリカンフットボールは芝への負担が大きいが、１チーム当たり 80～90 人と規

模が大きく、また、人工芝が利用可能。セールスのやり方を工夫していく必要がある。
・その他、芝を使う競技としてはラクロスやフリスビーも挙げられる。これまではこれらの協議へのアプローチが弱かった。今後積極的に誘致したい。

【近藤委員長】
・広野町の減容化施設は事業終了後どのように跡地利用するのか。

【菅野委員】
・具体的には何も決まっていないが、例えばアスレチックフィールドなど地域に愛される施設を設置できればいいと考えている。

【小野委員】
・子どものための遊び場のような施設の設置予定はあるのか。

【宍戸委員】
・天神岬公園の遊具を改修する予定がある。Ｊヴィレッジや広野町とある程度重複するのはやむを得ない。このような場で情報交換し、調整したい。

【近藤委員長】
・再整備費用の確保が課題だが、ネーミングライツの導入はぜひ検討してほしい。
・また、マリーゼのような女子プロチームの再開など、夢のある話を盛り込んでほしい。

【戸田委員】
・現実的にはある程度高い年齢層から徐々に誘客を図ることを想定すべき。
・初期段階で協力していただいた方とつながりを持ち続けることでファンを増やしていきたい。

【菅野委員】
・シンボル性やセールスポイントを磨き上げることは必須。風評は根強いため、情報発信の積み重ねが重要と考える。

【宍戸委員】
・イノベーション・コースト構想の宿泊機能など、Ｊヴィレッジの位置付けは震災前とは異なってくるはず。今後のＪヴィレッジの位置づけも計画に盛り込むべきでは。
・楢葉町が今後Ｊヴィレッジとどのように積極的に関わっていくか、町として議論したい。

【近藤委員長】
・JFA アカデミーの記載はどうか。

【上田委員】
・環境が整ったうえで、Ｊヴィレッジで再開すると決定している。

【小野委員】
・Ｊヴィレッジの存在価値は、サッカーの聖地であること。それゆえにこれまで多くの

方がＪヴィレッジを訪れてくれた。方針としては、サッカーNTC を掲げながら、実体としてはビジネスユースや復興ツーリズムなど様々な要素を取り込んで運営していくこと。

・代表チームのベースキャンプとなり、そのことで子どもたちもＪヴィレッジでプレーしたいという夢をもつ。多くの人でにぎわい、地域再生の起爆剤となる。それを目指すということを計画に書き込んでほしい。

（２）その他

・プロジェクトチームにおいて更に検討を進め、次回委員会を別途日程調整のうえ開催することとし、議事を終了した。